

決算説明会

2008年8月14日

沖電気工業株式会社

本日のご説明内容

1. 2008年度 第1四半期決算について
 - 1-1) 決算概要
 - 1-2) 事業別セグメント情報
 - 1-3) 営業利益の変動要因
 - 1-4) P/Lの概要
 - 1-5) B/Sの概要
 - 1-6) キャッシュフローの概要

2. 2008年度 業績見通しについて

※比較のための前年同期の数値については、昨年公表時のものを使用しています。

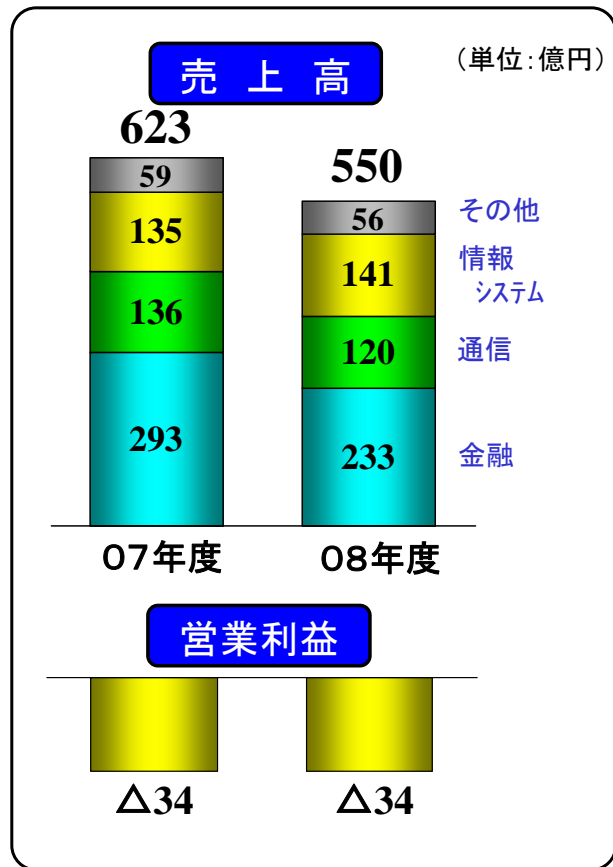
※本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

第1四半期 決算概要

- 売上高は郵政向けの民営化需要一巡や半導体の減収などにより、前年比13%減収の1,253億円
- 当期純利益はたな卸評価基準変更による特別損失などにより、222億円の損失

(単位:億円)	07年度	08年度
売上高	1,435	1,253
営業利益	△47	△65
経常利益	△54	△64
当期純利益	△80	△222
1株当り当期純利益	△11.73円	△32.45円
総資産	5,984	5,312
自己資本	1,024	722
1株当り純資産	149.84円	107.00円
有利子負債	2,826	2,743

事業別セグメント情報【情報通信】



■ 売上高: 73億円の減収

金融:

一般金融機関向けは国内営業店端末や中国向けATMが増収、郵政向けは民営化需要一巡で減収

通信:

事業の選択と集中の加速により、低採算事業の売上減

情報システム:

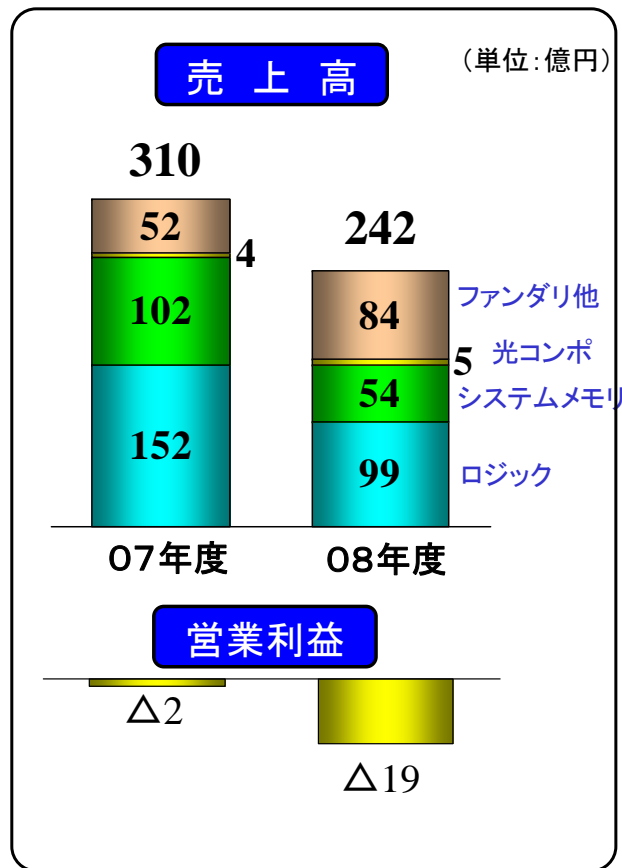
法人向けシステム売上増

■ 営業利益: 横ばい

郵政向けや通信での低採算事業の売上減。加えて、調達コスト低減及びVE、固定費削減

ATM: Automated Teller Machine VE: Value Engineering

事業別セグメント情報【半導体】



■ 売上高: 68億円の減収

ロジック:

ドライバLSIは液晶パネルメーカーのLSI内製化シフトにより、また中国向けPHS用BB-LSIは需要減少によりそれぞれ減収

システムメモリ:

P2ROMは需要変動および新商品開発遅延により減収

ファンダリ:

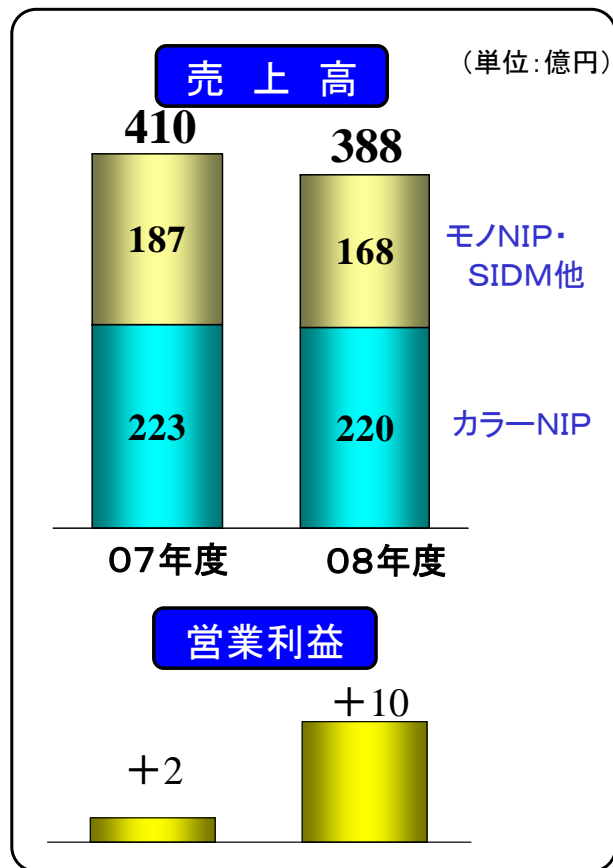
各社需要堅調

■ 営業利益: 17億円の減益

調達コスト低減およびVE、固定費削減があるものの、物量減少による限界利益減や価格下落をカバーできず

LSI: Large Scale Integration PHS: Personal Handy-phone System
P2ROM: Production Programmed Read Only Memory

事業別セグメント情報【プリンタ】



■ 売上高: 22億円の減収

カラーNIP:

中上位機種へのシフトにより、本体出荷台数は減少、消耗品売上は増加

モノNIP・SIDM他:

SIDMの出荷台数は、市場縮小により欧米向けが減少

■ 営業利益: 8億円の増益

カラーNIPの消耗品の増収、調達コスト低減およびVE

NIP:Non-Impact Printer

SIDM:Serial Impact Dot Matrix

営業利益の変動要因【全体】

- 半導体や情報通信の物量減により、限界利益減少
- 調達コスト低減およびVE、固定費削減などの効果はあるものの、全体では前年比18億円の悪化

(単位:億円)

07年度第1四半期実績	△47
08年度第1四半期実績	△65
営業利益増減	△18
■ 主要変動要因	
物量増減および機種構成差	△40
価格下落	△10
調達コスト低減およびVE	+25
固定費変動	+20
その他	△10

第1四半期P/Lの概要

(単位:億円)	07年度	08年度
売上高	1,435	1,253
(売上原価率)	(77.7%)	(76.8%)
売上原価	1,115	962
販管費	367	356
営業利益	△47	△65
営業外収支	△7	1
経常利益	△54	△64
特別損失	△3	△120
税引前利益	△57	△184
法人税等	23	38
当期純利益	△80	△222

【対前年比較】

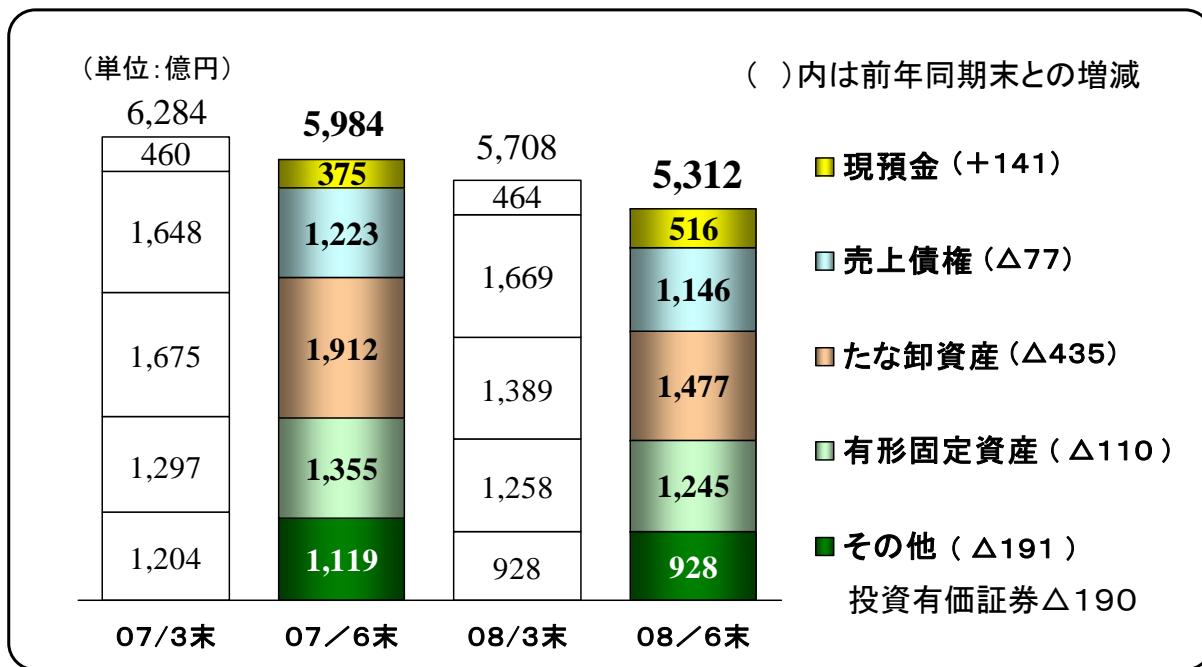
- 売上原価率は77.7%から76.8%へ0.9ポイントの改善
- 販管費は売上減少に加え、抑制継続もあり11億円減少
- 特別損失のうち、106億円はたな卸の評価基準変更等による評価損

【参考:為替レート】

	07	08
USD	120.8	104.6
Euro	162.7	163.4

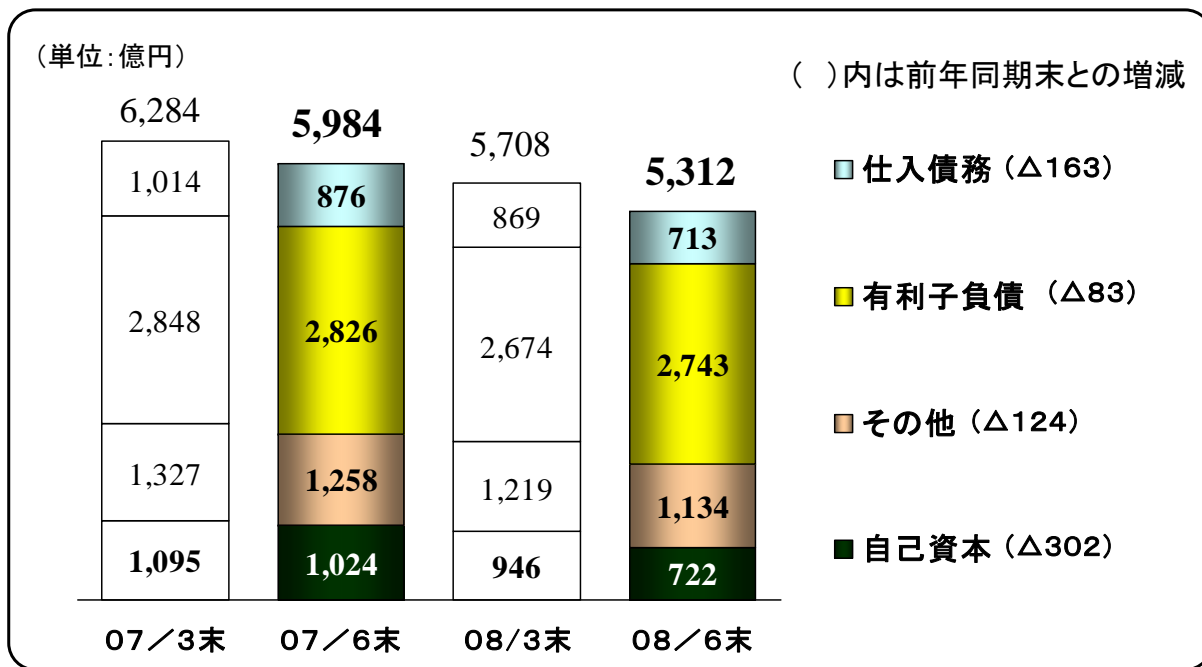
B/Sの概要 【資産の部】

- たな卸は削減活動の効果に加え、評価基準変更により、前年比435億円減少
- たな卸改善に加え、時価下落等により投資有価証券が190億円減少したことなどにより、総資産は同672億円減少



B/Sの概要 【負債・純資産の部】

- たな卸削減活動もあり、仕入債務は前年比163億円減少
- 自己資本は当期の損失や評価差額金の減少などにより、同302億円減少



第1四半期キャッシュフローの概要

- フリー・キャッシュフローは、前年比19億円の改善。運転資金がたな卸資産を中心に190億円改善の一方、当期利益は127億円の悪化が主因

(単位:億円)		07年度	08年度	備考
I	営業キャッシュフロー	55	63	
	税金等調整前当期純利益	△57	△184	<運転資金増減影響内訳> (07年度) (08年度) 売上債権 483 537 棚卸資産 △215 △79 仕入債務 △157 △157 計 111 301
	減価償却費	84	78	
	運転資金の増減	111	301	
	その他	△83	△132	
II	投資キャッシュフロー	△66	△55	
	設備投資支払額	△64	△46	
	その他投資活動	△2	△9	
	フリー・キャッシュフロー(I+II)	△11	8	
III	財務キャッシュフロー	△84	52	
	長短借入金の増減他	△84	52	
	キャッシュフロー計(I+II+III)	△95	60	
IV	現金同等物等の期末残高	423	561	

本日のご説明内容

1. 2008年度 第1四半期決算について
 - 1-1) 決算概要
 - 1-2) 事業別セグメント情報
 - 1-3) 営業利益の変動要因
 - 1-4) P/Lの概要
 - 1-5) B/Sの概要
 - 1-6) キャッシュフローの概要

2. 2008年度 業績見通しについて

2008年度 業績予想の修正について

- 半導体子会社の株式譲渡に関して、正式に契約を締結したことから通期業績予想修正
 - 半導体セグメントの売上高および営業利益の下期計画値を修正
 - 譲渡に伴う営業外収支の改善
- 譲渡価格と資産の額は予定の範囲内で決定すると思われるが、譲渡時にそれぞれの評価額が確定するため、金額は変動する可能性がある
- 譲渡やその他要因が業績に及ぼす影響も想定されるが、現段階で予想に織り込まない

(単位:億円)	通期業績 予想	修正額	前回(5/28)公表	
			通期	上期
売上高	6,290	△710	7,000	3,000
営業利益	70	△50	120	△90
営業外収支	△65	15	△80	△35
経常利益	5	△35	40	△125
特別損益	△135	0	△135	△120
当期純利益	△175	△35	△140	△245

下期の重点施策と事業の状況

●下期の重点施策

- 情報通信、メカトロ(ATM、プリンタ等)事業強化のための投資
- OKIグループ運営体制の見直し
 - ✓より強みを活かした事業体制に向けた、グループ企業も含めた見直し
 - ✓コーポレート機能の見直しとスリム化
 - ✓通信事業会社の設立

●半導体以外の事業の状況について

- 金融: 中国向けATM出荷台数は増加傾向、営業店端末はほぼ計画どおり
- 通信: 事業環境は引き続き厳しいが、分社化による効率化などで目標達成を目指す
- 情報: ほぼ計画どおり
- プリンタ: カラーNIPの中上位機種へのシフト継続、消耗品は増収傾向